

① 写真の上にある□には、6文字の大見出しが入ります。考えて書いてみましょう。

② 4年後の東京五輪に向け、2選手はどう頑張ろうとしていますか。記事の中から書き出しましょう。

・長岡選手

目の前のことをやり続けるという積み重ね

・鍋谷選手

1年1年をしっかりと頑張る

③ リオデジャネイロ五輪で、印象に残った競技、種目は何ですか。思い出して理由と一緒に書きましょう。

先輩おかえり



バレーボール部の後輩から花束を受け取る鍋谷友理枝選手（左手前）と長岡望悠選手＝7日、中津市の東九州龍谷高校体育館

バレーボール女子の日本代表としてリオデジャネイロ五輪に出場した長岡望悠（25）、鍋谷友理枝（22）の両選手が7日、母校の東九州龍谷高校（中津市）を訪れた。準々決勝で敗れたが、温かく出迎えた全校生徒の前で、大会の感想と今後の抱負を語った。

日本選手団の真っ赤なジャージを着た2人が体育館に入ると、生徒から大きな拍手と歓声が湧いた。バレーボール部は「先輩おかえりなさい」と書いた模造紙で迎え、相原昇監督が2人の経歴を紹介した。2人が卒業した後、思い出の体育館は改築されたが、「懐かしい空気」「原点に戻ったような気持ち」

母校の東九州龍谷高を訪問

バレー リオ五輪出場の長岡・鍋谷両選手

「東京へ」積み重ね大事



2人は同部後輩の山城愛心さん（18）、3年・顔写真右、吉岡美晴さん（17）、同・同左から花束を受け取り、全校生徒と記念撮影をした。（竹内達也）

と笑みをこぼした。梅高賢正理事長らが「悔しい思いをしたが2人には東京五輪がある。日本代表に選ばれ続けてほしい」とあいさつ。南孝一郎生徒会長（17）は「一生に一度会えるかどうかの先輩に会えてうれしいです」と素直な喜びを伝えた。

初めての五輪出場だった2人は「メダルを持って帰れず悔しい」と口をそろえた。4年後の東京五輪を見据え、長岡選手は「目の前のことをやり続けるという積み重ねが大事」、鍋谷選手は「一年一年をしっかりと頑張っていきたい」と意気込んだ。

(2016年9月8日付朝刊県北面)

多岐にわたるため省略します